

タイルの製造方法のひとつ、湿式タイルと呼ばれる種類をつくる過程をご紹介します。

湿式タイルは、帝国ホテル日本館(ライト館)の外壁に使われた「すだれ煉瓦」と基本的に同じ方法で土の質感がよく感じられる特長があります。

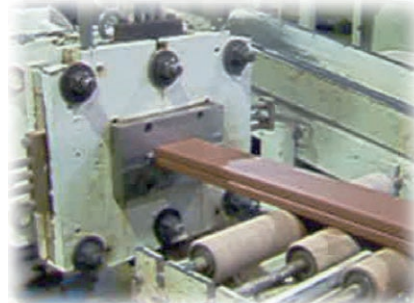


### 1 「土を練る」



タイル商品ごとの色やテクスチャにあわせ土や顔料などの原料を調合し、土練機で練り合わせます。

### 2 「タイルの形をつくる」



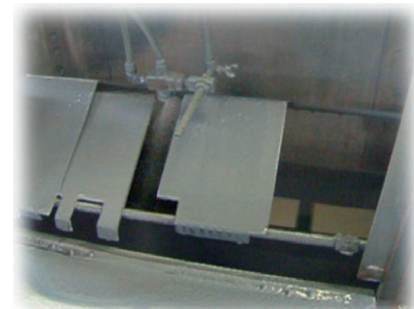
真空押し出し成形機でところてんのように粘土を押し出しながらタイルの形を作ります。

### 3 「乾燥させる」



3～5日程度かけてゆっくり乾燥させます。乾燥には、窯の廃熱を利用してエネルギーを無駄なく使います。

### 4 「釉薬をかける」



タイルに釉薬をかけます。かけ方も意匠によってぼかしたり、斑点のようにしたり様々な方法があります。

### 5 「窯でタイルを焼く」(本焼成)



タイルをトロツコのような台車に積み、トンネル状の窯を30～40時間かけてゆっくり通るとタイルが焼きあがります。中央部が最高1300℃近い高温です。

### 6 「検査をする」



焼きあがったタイルは、JIS規格より厳しいLIXILの品質基準で検査され、焼き物に特有の色バラつきも商品として定めた範囲に選別して梱包されます。